



## 幼児教育体験研修を通して

桜区 栄和小学校 教諭 林 早希

桜区 栄和小学校 教諭 郡 司 百合

幼稚園に入った瞬間、かわいい子どもたちの笑顔が目飛び込んできた。元気に走り回る姿を見ていると、幸せな気分になった。

園児たちと過ごす、想像以上に自立していることに驚いた。自分の荷物を片付ける、毎朝連絡帳を提出するなど、多くのことを当たり前のように行っていた。小学校で教えていることが、すでに幼稚園段階で身に付いている子がたくさんいた。その「当たり前」の陰には、幼稚園の先生方の指導の積み重ねがあった。丁寧に声をかけ、些細なことでもできるとよく褒める、時には叱り、納得するまで話をする、そんな姿が印象的だった。

園児と小学生、年齢は違っていても、すべきことを教え、一人ひとりを認め、褒めることはとても大切であり、その積み重ねが、子どもたちの自立や自信につながるのだと改めて学んだ。

園児たちは、小学校に大きな期待と不安を抱いて入学してくるだろう。発達段階に合わせた指導を行い、自立しているところは伸ばし、つまづきは少しでも減らせるようにしたい。そのためにも、幼稚園と小学校の情報交換を密に行い、より連携を強めていくことが重要だと感じた。それぞれがお互いの目指すものを理解し合うことで、継続的に子どもたちの成長を導けるようになると思う。

子どもたちの輝く笑顔を見続けられるよう、今回の体験を生かして指導していきたい。

(林)

幼児教育の現場に入るのは初めてだったが、年長のクラスでは、小学生の指導と変わらず「自分のことは自分でする」ことが徹底されており、そのことに、まず驚いた。

保育園、幼稚園と小学校との連携を図る必要性は感じていたものの、実際の幼稚園での教育や、園児の発達段階については、ほとんど知らなかった。この研修を通じて、就学前の子どもたちの様子を学べたことは大変意義深いものとなった。

登園後には指示がなくても提出物を出し、荷物を整頓する園児。それを見守り、必要最低限で明確な助言をしていた先生方。また、作業が終わった園児には大きな称賛を与えており、園児は充実感や満足感を得ていた。事前に明確な指示を出し、指導をすることと、それを繰り返すことで、園児がやるべきことを覚え、自立していけるのだろう。

また、自分本意な行動をしがちな年齢ではあるものの、友達が使った遊び道具を進んで片付けたり、年齢の低い園児に配慮しながら安全に注意して遊んだり、思いやりある姿が数多くみられた。入学後、早い段階で清掃や係活動など「みんなのための活動」にも力を入れて指導をすることで、幼稚園で身に付けた"自立心"や"思いやり"を、伸ばしていけるのではないかと思う。今後は低学年の児童でも、芽生え始めた自立心や協調性を重視し、指導に生かしていきたい。

(郡司)